

唐物誕生

— 茶の湯デザインの源流をさぐる —

茶の湯に受け継がれた
中国古代のDNA



Special Exhibition

The Birth of Karamono:
Exploring the Origins of
Chanoyu Designs

胡瓶
中国明
朝人蔵

PRESS RELEASE

2026.
11.3 火祝 — 12.13 日

前期: 11月3日(火・祝)～11月23日(月・祝) 後期: 11月25日(水)～12月13日(日)

一 開館時間 11時～18時 ※ 金曜日は19時まで
開館 ※ 入館は閉館の30分前まで 一 休館日 月
曜日 11月24日(火) ※ 11月23日(月・祝)は開館
一 入館料 一般 1,500円 1,300円、学生
800円(700円) 18歳以下 無料 ※ 学生・18
歳以下のかたは証明書の提示が必要です。
※ 20名様以上の団体のかたは(一)内の割引料
金 ※ 障がい者手帳等をご提示のかたは本
人および同伴者1名まで無料 ※ 本展2回目
のご来館時にチケットの半券ご提示で1名様
1回限り半額。
一 主催 公益財団法人泉屋博古館 毎日新聞社
一 特別協力 一般財団法人今日庵茶道資料館、
芦屋釜の里 一 後援 TOKYO MX 一 助成 一
芸術文化振興基金

〒100-0003 東京都港区六本木一丁目5番1号
TEL: 03-5541-1600 (リダイヤル)



泉屋博古館東京



<https://sen-oku.or.jp/tokyo/>

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

泉屋博古館東京

開催趣旨

茶の湯デザインの3000年史——中世日本では、大陸との交流のなかで喫茶の風習がもたらされ、やがて「茶の湯」として独自の伝統文化を形成していきます。喫茶に用いられ、そして喫茶の場を彩る道具には「唐物」とよばれる大陸の文物が珍重され、当時の人々の価値観や美意識による選別を経て、いわゆる「名物」として評価されるものも登場しました。本展ではこうした「唐物」が誕生する過程を、はるか中国古代にまでさかのぼってご紹介し、胡銅（古銅）とよばれる花入を切り口として、金工品や陶磁器、漆工など、素材を越えた共通性にも着目しながら、茶の湯デザインを東アジア文化史のなかに再定位することを試みます。さらに、これまで未解明であった胡銅の鑄造技術にせまる特集コーナーも設け、最新の研究成果もあわせてご紹介します。

からもの 唐物とは

唐物とは——古代・中世において中国などから輸入された諸物貨に冠せられた和訓の総称（『国史大辞典』）。なかでも日中貿易が盛んになった鎌倉～室町時代には、さまざまな種類の「唐物」がもたらされ、それらはやがて成立してくる茶の湯のなかで貴重な茶道具として珍重されるようになりました。ただし、当時「唐物」と認識されていた文物はかならずしも中国産にはかぎられず、朝鮮半島や東南アジアで制作されたものや、あるいは国産品も含まれます。本展覧会では中世後期の日本で珍重された舶来の茶道具類を広く「唐物」とよび、中国文物を範としつつ、模倣やアレンジを加えて裾野が広がっていく茶の湯デザインの文化史的背景を、約三千年前の中国古代にまでさかのぼってご紹介することを試みます。

展覧会の見どころ

#1

泉屋博古館と茶道資料館（裏千家・今日庵）、芦屋釜の里の三者コラボによる初の展覧会！複数年にわたる共同研究の成果にもとづき、茶の湯デザインの源流にせまる挑戦的な内容にぜひご注目ください。

#2

茶の湯の美意識を形作った名品の数々が一堂に会する貴重な機会。絵画・陶磁器・漆工品・金工品など幅広いジャンルから、国宝6点、重要文化財9点を含む約80点が出品（前後期の展示替えあり）。

#3

茶の湯の名物の数々と、世界最高峰と謳われる住友コレクションの殷周青銅器が共存する唯一無二の展示空間。異色のコラボにより、茶の湯デザインの源流をはるか古代中国にまでさかのぼり、古くて新しい視点からご紹介します。

#4

芦屋釜の里とのコラボにより、これまで産地など多くの謎に包まれていた青銅製の花入（胡銅）の鑄造実験を敢行。最新の研究成果から、謎多き胡銅の実態にせまる特集展示コーナーも設けています。

I いにしえへの あこがれ



金銀錯獣形尊
中国・北宋／10-12 世紀
泉屋博古館



左：獣面紋玉琮
中国・新石器／前 3300-2300
和泉市久保惣記念美術館

右：鼎父己尊
中国・殷／前 11 世紀
泉屋博古館

いまから約三千年前、殷周時代に盛んにつくられた青銅器は、その造形レベルの高さからのちの時代の美術工芸の模範とされましたが、それだけでなく、周の時代は儒教のなかで理想の治世がなされた時代とされ、その遺風を伝える青銅器は特別に尊ばれるようになりました。「東洋のルネサンス」とも称される宋代では、こうした青銅器に対する関心が急速に高まり、同時代の陶磁器や金工品などのデザインにも強く影響をおよぼすようになります。本章では住友コレクションのほこる中国古代青銅器と、いにしえへのあこがれから生み出された工芸品とともに展示し、のちの「唐物」へと受け継がれるデザインの源流をご紹介します。

左：重要文化財 青磁琮形花入
中国・南宋／12-13 世紀
東京国立博物館



右：青磁尊形花入
中国・南宋～元／13 世紀
東京国立博物館





左：国宝 しゅうけいさんすいず 秋景山水図
中国・南宋／13世紀
京都・金地院
展示期間 11/3 ～ 11/23

右：国宝 とうけいさんすいず 冬景山水図
中国・南宋／13世紀
京都・金地院
展示期間 11/25 ～ 12/13

からものぶんりんちやいれ 唐物文琳茶入 わかくさ 銘若草
中国・南宋～元／13-14世紀
泉屋博古館東京



II

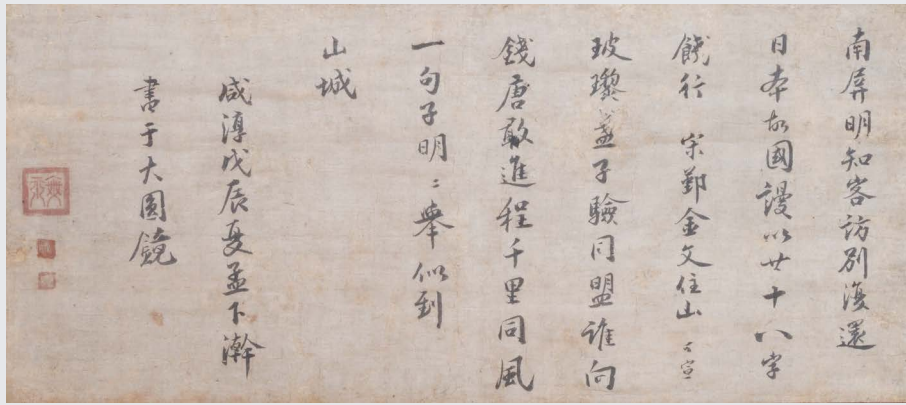
規範の形成 宋元時代の喫茶文化と文物

宋代以降、士大夫したいふと呼ばれる知識人層が当時の政治・文化の中心をになうようになり、彼らの価値観が強く反映された文物が重視されるようになります。同時に、点茶法とよばれる喫茶も流行し、その用途にかなう道具や、喫茶の空間を飾る工芸品も生み出されました。やがて、こうした文物にあらわされたデザインは、のちの時代まで受け継がれる「規範」を形成し、東アジアの文化に多大な影響を与えるようになります。本章では中国宋元時代の絵画・工芸作品を一堂に会し、この時代の中国で生み出された「古典」とはいかなるものかを探っていきます。

左：重要文化財 ほうおうかきつしゆぼこ 鳳凰花卉堆朱箱
中国・南宋／13世紀
東京国立博物館
展示期間 11/3 ～ 11/23
Image: TMN image Archive

右：国宝 せいじほうおうみはなけ 青磁鳳凰耳花生 ばんせい 銘万声
中国・南宋／13世紀
和泉市久保惣記念美術館





重要文化財 無爾可宣墨蹟
中国・南宋／咸淳4年（1268）
今日庵
展示期間 11/3 ～ 11/23



重要文化財 布袋図
黙庵靈淵筆・月江正印賛
日本・南北朝／14世紀
泉屋博古館

あしやあられしんなりがま
芦屋霰地真形釜
日本・室町／15世紀
芦屋釜の里



せいじけびょう
青磁花瓶
中国・元／14世紀
神奈川・称名寺
*花台は展示されません



日本中世では、海上交易を通じて大陸との交流が活発におこなわれ、当時の最先端の流行であった喫茶文化にかかわる文物ももたらされることとなりました。それらが日本国内で特に珍重されるようになり、やがて「唐物」として茶の湯の形成に大きな役割を果たします。一方で、単に中国文化に追随するだけでなく、国内でそれを模したもの、そこから日本独自のデザインへと進化したものも生み出されています。本章では日本と大陸の交流の証、そしてメイドインジャパンの胎動を示す作品から、喫茶の受容と文化交流のあり方にせまっています。

日中交易と喫茶文化の伝来



上：国宝 ^{しゅうやぼくぎゅうず} 秋野牧牛図
(伝) 閻次平筆
中国・南宋／13世紀
泉屋博古館
展示期間 11/25 ～ 12/13

下：^{ろようだるまこうごう} 芦葉達磨香合
中国・明／16世紀
泉屋博古館東京



重要文化財 ^{せいじりんかちやわん} 青磁輪花茶碗 ^{ぼこうはん} 銘馬蝗絆
中国・南宋／13世紀
東京国立博物館
展示期間 11/25 ～ 12/13
Image: TMN image Archive



左：国宝 ^{たいひさんかもんでんもくちやわん} 玳瑁散花文天目茶碗
中国・南宋／12-13世紀
京都・相国寺
展示期間 11/3 ～ 11/23

下：重要文化財 ^{えんぽきはんず} 遠浦帰帆図
(伝) 牧谿筆
中国・南宋／12-13世紀
京都国立博物館
展示期間 11/3 ～ 11/23



IV

日本にもたらされた大陸の文物は、時の権力者によっても重視されるようになり、彼らによって活発にコレクションされるようになります。なかでも足利幕府八代将軍の足利義政が所蔵したとされる「東山御物」と、その飾り方や鑑定に関する指南書である『^{くんだいかんそうちようき}君台観左右帳記』は、のちの時代の茶の湯のあり方に大きな影響を与えました。ここでは単に中国文化を受容するだけでなく、当時の日本人の価値観による選別のプロセスが働いており、「唐物」というカテゴリーがまさに日本文化的現象としてかたちづくられたことが、当時の作品群から見えてきます。本章ではそうした様相を、いわゆる「東山御物」の名品たちを中心に見ていきます。

『君台観左右帳記』の時代



こどうももじりはないれ
胡桃桃花入
中国・明／15世紀
いずれも個人蔵

当初は中国文化の強い影響下で形成された喫茶文化は、中世後期になると、徐々に日本独自のものへと変貌を遂げていきます。喫茶の空間を飾る道具たちも、いわゆる「唐物」のみならず、国産の道具が評価を上げていくことになります。「和漢のさかいをまぎらかす」ことが重視されていくわけですが、そうしたなか登場する千利休が、いわゆる「わび茶」の大成者として歴史的に評価されていくことになります。しかし、利休の時代に用いられていた道具を見ていくと、意外にも大陸的要素の強いものがすくなくないことに気づきます。そして、そのなかには中国古代青銅器からの系譜を連綿と受け継ぐデザインも見られるのです。本章では、利休のめざした茶の湯のあり方と、そこに受け継がれる中国古代からの系譜を、名品たちのなかから探っていきます。



こいぢやわん ろくじぞう
小井戸茶碗 銘六地藏
朝鮮／16世紀
泉屋博古館東京



うんりゅうがま
雲龍釜
日本・室町／16世紀
山口・漢陽寺



こどうぞうみみはないれ
古銅象耳花入 銘キネナリ
中国・元～明／14-15世紀
泉屋博古館東京

Vそして利休へ

特集展示 胡銅の鑄造技術を さぐる

茶の湯の世界ではもっとも格式の高い、真の花入として重視される胡銅。中国古代青銅器を模したデザインが見られることから、「唐物」としてあつかわれることの多い胡銅ですが、実はその産地については未解明の点が多くのことされています。謎多き胡銅の実態解明をめざして、泉屋博古館は茶道資料館・芦屋釜の里とともに胡銅の鑄造技術の調査を進め、その成果にもとづいて胡銅桃尻花入の鑄造実験にも取り組んでしました。この特集展示では実験の成果を公開し、胡銅という「唐物」が誕生する過程について、鑄造技術という観点からせまっています。



鑄造実験の様子

関連イベント情報

① 講演会「胡銅の茶の湯文化史」

日時：11月3日(火・祝) 14:00～15:00

講師：伊住禮次郎氏(茶道資料館副館長)

* 要事前申込・要観覧券

② 記念シンポジウム「日本伝統文化と中国金工品」

日時：11月29日(日) 14:00～17:00

講師：池坊専宗氏(華道家・写真家)

伊住禮次郎氏(茶道資料館副館長)

新郷英弘氏(芦屋釜の里資料館館長)

山本 堯(泉屋博古館学芸員)

* 要事前申込・要観覧券



泉屋博古館東京講堂
収容人数：50名

③ 〈アート with〉 レクチャー

「倣古創新——芦屋釜と中国青銅器に学び」

日時：11月27日(金) 17:30～18:30

講師：樋口陽介氏(芦屋鋳物師)

参加費：500円

* 要事前申込・要観覧券・要参加費

芦屋鋳物師
樋口陽介氏



錫製酒器 てんしょう 《天象》

樋口陽介氏制作 東京館にて発売中



④ スライドトーク

日時：11月12日(木) 14:00～15:00

講師：森下愛子(泉屋博古館東京学芸課長)

日時：11月28日(土) 14:00～15:00

講師：山本 堯(泉屋博古館学芸員)

* 要観覧券

* 当日11時より整理券配布(定員になり次第、締め切らせていただきます)

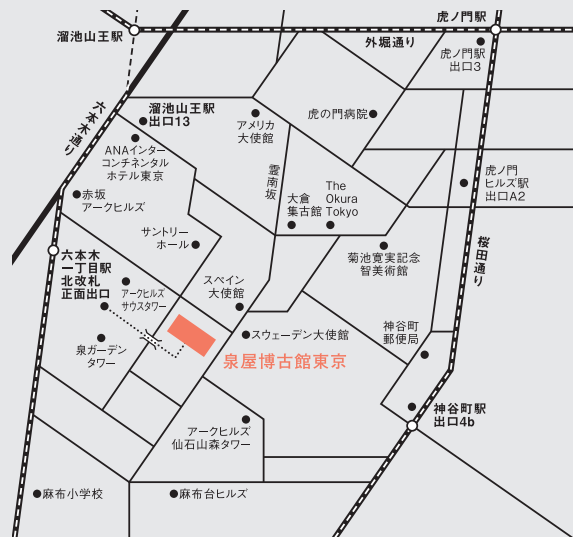
開催概要

展覧会名	唐物誕生——茶の湯デザインの源流をさぐる
会 期	2026 年 11 月 3 日(火・祝) — 12 月 13 日(日) [前期]: 11 月 3 日(火・祝) — 11 月 23 日(月・祝) [後期]: 11 月 25 日(水) — 12 月 13 日(日)
開館時間	11 時—18 時 (*金曜日は 19 時まで、入館は閉館時間の 30 分前まで)
休 館 日	月曜日 (11 月 23 日は開館)、11 月 24 日
入 館 料	一般 1,500 円(1,300 円)、学生 800 円(700 円) *学生ならびに 18 歳以下の方は証明書の提示が必要です * 20 名以上は()内の団体料金、障がい者手帳ご提示の方はご本人および同伴者 1 名まで無料
会 場	泉屋博古館東京 〒106-0032 東京都港区六本木 1-5-1
主 催	公益財団法人泉屋博古館、毎日新聞社
特別協力	一般財団法人今日庵 茶道資料館、芦屋釜の里
後 援	TOKYO MX
助 成	芸術文化振興基金 
お問い合わせ	web: https://sen-oku.or.jp/tokyo/ e-mail: t-info@sen-oku.or.jp tel: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

交通アクセス

東京メトロ 南北線「六本木一丁目」駅下車、北改札正面出口より屋外エスカレーターで 3 分
日比谷線「神谷町」駅下車、4b 出口より徒歩 10 分
銀座線「溜池山王」駅下車、13 番出口より徒歩 10 分

泉屋博古館東京外観





① 獣面紋玉琮
中国・新石器／前 3300-2300
和泉市久保惣記念美術館



② 鼎父己尊
中国・殷／前 11 世紀
泉屋博古館



③ 重要文化財 青磁琮形花入
中国・南宋／12-13 世紀
東京国立博物館
Image: TNM image Archive



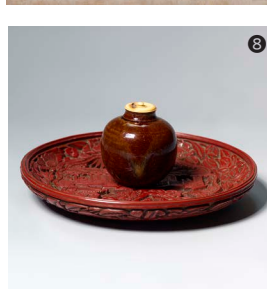
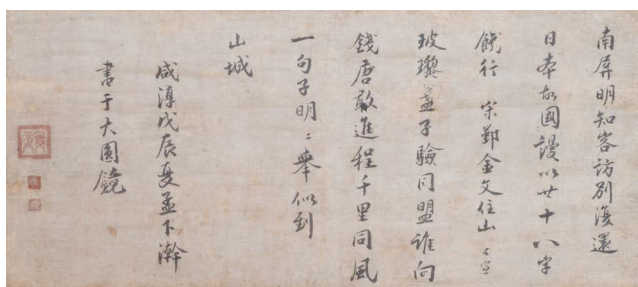
④ 金銀錯獣形尊
中国・北宋／10-12 世紀
泉屋博古館



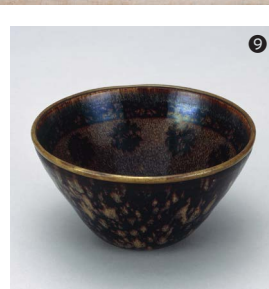
⑤ 国宝 秋野牧牛図
(伝) 閻次平筆
中国・南宋／13 世紀
泉屋博古館
展示期間 11/25 ~ 12/13



⑥ 国宝 秋景・冬景山水図
(伝) 徽宗筆
中国・南宋／13 世紀
京都・金地院
展示期間：(左) 秋景山水図 11/3 ~ 11/23
(右) 冬景山水図 11/25 ~ 12/13



⑦ 重要文化財 無爾可宣墨蹟
中国・南宋／咸淳 4 年 (1268)
今日庵
展示期間 11/3 ~ 11/23



⑧ 唐物文琳茶入 銘若草
中国・南宋～元／13-14 世紀
泉屋博古館東京

⑨ 国宝 玳瑁散花文天目茶碗
中国・南宋／12-13 世紀
京都・相国寺
展示期間 11/3 ~ 11/23



⑩ 重要文化財 青磁輪花茶碗 銘馬蝗絆
中国・南宋／13 世紀
東京国立博物館
Image: TNM image Archive
展示期間 11/25 ~ 12/13



⑪ 芦屋霞地真形釜
日本・室町／15 世紀
芦屋釜の里



⑫ 小井戸茶碗 銘六地藏
朝鮮／16 世紀
泉屋博古館東京



⑬ 胡銅桃尻花入
中国・明／15 世紀
個人蔵